

清掃センターの 現状とごみ処理 広域化

奥秋康子 議員

清掃センターは平成3年に稼働し、その後たびたび焼却炉の修理を繰り返してきた。平成28年度を目途に広域化を十勝環境複合事務組合と進めるとのことであったが、現時点では具体的な内容等が見えない。

①広域化の早期実現に向けて具体化する責務があると思うが、広域化が先延ばしになっている原因は。

②現状維持の場合と広域化した場合の財政負担は。

③平成31年に広域化することのことが、その間、巨額な補修費の必要性はないのか。

高薄町長

①十勝環境複合事務組合を通じて協議を重ねてきたが、その間、音更町の最終処分場が満杯になり

池田町に建設することになるなど、状況が変わったことが原因である。

②現状維持の場合、工事費等で21億6千万円を予想しており、交付税等を除いた町の負担は10億円と見込んでいる。

広域化に伴う事業費は1億円強で、町の負担は7千万円と見込んでいる。その他に施設の維持管理費として15年間で1億円強を見込んでいる。

金田副町長

③広域化は平成31年度となっているが、炉に大きな修理が必要となった場合には時期を早めることも可能であることを確認している。



供用開始から24年が経過し、耐用限界に近づいている清掃センター

認知症の方が安心して暮らしていくために

奥秋康子 議員

①本町の高齢化率は33.7%と高くなっている。認知症の実態と今後の推移について伺う。

②本町における認知症の早期発見早期治療の取り組みは。

③かかりつけ医による初期段階での気づきが症状の悪化を防ぐという。認知症対応力向上研修会の参加状況と今後の取り組みは。

④家族が介護中であると一目でわかるように、町オリジナルの介護パートナーマークを作成し、高齢者に優しい町としてのイメージアップを図ってみたい。

高薄町長

①6月末の状況では介護認定者が664人であり、うち319人は認知症による日常生活自立度が低

いと医師の判断を受けている。この人数は65歳以上の町民の1割弱であり、今後も同じように推移していくと思われる。

②保健師が老人クラブなどを訪問して聞き取りをするなど、要請や必要に応じた取り組みを行っている。

③町内の医師が研修を受けた例はない。今後は広域で連携して進めたい。

④介護マーク名札配付事業として平成26年2月から取り組んでいるが、もう少し利用者を増やすよう改善する必要がある。介護する方の不利益にならないように、認知症に対する啓蒙活動を行い、理解を求めていきたい。

高齢者向け住宅の建築

西山輝和 議員

人口減少時代を迎え、少子高齢化が一層進行し、今まさに地域のあり方が

問われている。本町も国の政策に基づく地方創生総合戦略を策定し、「安心して住めるまちづくり」に取り組んでいるが、来年度に向けての高齢者向け住宅の建築について伺う。

①本町の単身高齢者及び高齢者夫婦世帯の状況は。

②今後、要介護者施設(受け皿)の供給に問題が出てくる恐れは。

③高齢者向け住宅の建築に取り組む考えはあるか。

高薄町長

①11月現在、65歳以上の単身者は891名、夫婦世帯は895世帯の1790名である。

②需要と供給の問題は出てくるので、できるだけ速やかに体制をつくっていききたい。

③御影診療所の近くにある公営住宅跡地に高齢者向けの住宅を考えている。

国の新しい総合事業で独自サービスの提供が可能になることから、サービス内容についても検討し

JR北海道の無人駅廃止と減便方針

西山輝和 議員

JR北海道の無人駅廃止と減便方針に対する、町のスタンスと今後の対応について伺う。

①JR北海道の方針に伴い、本町や管内自治体へ詳細の説明はあったか。

②JR北海道の方針に対する、本町のスタンスと今後の具体的な行動は。

高薄町長

①十勝総合振興局を通じて聞いているが、本町と芽室町には減便がないために詳細の説明はない。②北海道全体の問題であるので、道の方からJR北海道に要請と申し入れをしてもらった。

今後はJR北海道や、さまざまな分野からいち早く情報を取り入れながら、早い段階での協議を重ねていきたい。